

# 尾瀬ネットワーク通信

2007年8月20日 VOL10. 3(32) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

## 環境省に単独国立公園化で要望書提出

### 群馬・福島両県には稚魚放流の廃止申し入れ

尾瀬を守る会（中根一郎会長、ネットワークなど4団体で構成）は6月29日、環境省自然環境局に富岡悟局長を訪ね、尾瀬単独国立公園化に当たって緊急に整備してほしい事項などを盛り込んだ要望書を手渡すとともに、同局長の考えや今後の単独公園整備計画などについて質問した。

これに対して同局長は、7月中にも「尾瀬国立公園」が成立すること、整備計画は自然保護団体などの意見を入れてまとめたいなどと答えた。

なお、参議院環境委員長大石正光氏の政策秘書花田 叶氏に同行していただき面談したのは守る会の鈴木隆秀、日吉尚孝（いずれも全国山林ネットワーク）の両氏とネットワークの椎名事務局長の3名。

また、守る会はヨッピー川など尾瀬エリアで利根漁協（沼田市）が養殖ヤマメの稚魚を放流している問題を重視し、尾瀬の生態系に重大な影響を及ぼす恐れがあるとして、漁業権の認可を行っている群馬・福島両県知事と同漁協の組合長に対して、放流停止に関する要望書を提出した。

2件の要望書の全文は下記のとおり。

（高橋 喬）

環境省自然環境局長  
富岡 悟 殿

平成19年6月29日  
尾瀬を守る会

代表 中根一郎 印

尾瀬の単独国立公園に向けてのパブリック・

コメントの公募に応募し、当会がこれまで提起してきた諸問題を中心に、下記についての速やかな改善を重ねて要望します。いずれも国立公園として求められる環境整備問題であると考えます。

- 1) 尾瀬沼キャンプ場北側の旧ゴミ焼却場をはじめ見晴地区の旧共同ゴミ処理場、山の鼻の旧公衆トイレ跡、沼尻休憩所跡などのゴミ処理を早急に進めること。
- 2) 至仏山東面登山道を上り専用にする案が出されたが、入山者への周知徹底がなされていない。同登山道の保護のために入山者の指導を徹底してほしい。
- 3) 尾瀬国立公園（仮称）の構想では、南会津の会津駒ヶ岳、帝釈山、田代山の編入を想定しているが、この地区の自然環境をどのように保護していくのか。具体案を早急に策定して公表してほしい。
- 4) 尾瀬沼畔の長蔵小屋別館跡に新設したヘリポートには共用されている痕跡がない。実際に、長蔵小屋が以前からの自家用ヘリポートを使用して荷降ろししているのを目撃した。その際、ビジターセンターには中学生の集団をはじめ一般の入山者がいて、荷降ろしを見ていた。税金を投入して建設したヘリポートをなぜ有効利用しないのか。「空輸作業管理要綱」「管理ヤード使用規定」により適切な対応はできないのか。
- 5) 尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺を中心に野生シカが年々増殖を続け、貴重な湿原を破壊している。約10年を経過したこれまでの調査でこの傾向が把握されているにもかかわらず、具体的な行動計画（捕獲計画）が打ち出されないのはなぜか。

- 6) 今年も去る5月に利根漁協が、尾瀬ヶ原にヤマメ1万匹を放流した。尾瀬に生息しているイワナなどの生態系への悪影響が憂慮される。禁猟区の尾瀬におけるこのような旧態依然とした慣行は、漁業権の許認可の条件として群馬・福島両県の指示で行われているとされる。環境省はこの事態を收拾するため、改善を指導することはできないか。
- 7) 本来、沼尻川に流れていた尾瀬沼の水を取水口によって群馬県側に流していること、わずかな沼尻川の水も山小屋の水利用が増加していることにより、見晴地区の湿原の乾燥化が急ピッチで進んでいる。尾瀬の貴重な湿原を単なる荒野にしないために、1日も早く事態の改善を図ってほしい。

群馬県知事

(財)尾瀬保護財団理事長

小寺 弘之 殿

平成19年6月29日

尾瀬を守る会

代表 中根一郎印

### 尾瀬における淡水魚放流停止に関する要望書

去る5月に利根漁協が尾瀬ヶ原で行ったヤマメの放流は、尾瀬の自然保護にとって由々しき問題であり、今後、放流を停止するよう要望する。

このような旧態依然とした行為が、今日まで自然科学的検討も加えられないまま行政によって指示されていたことは問題であり、尾瀬単独国立公園の実現を目前にして、即刻、停止の方向で検討を急ぐべきである。

漁業権の許認可と魚の放流は別問題として捉えるべきで、漁業権の許認可の条件として放流を指示することは、実際に尾瀬では漁業が成り立たない現状からして、零細漁業者いじめというしかない。

外来植物が尾瀬の貴重な高山植物の生態系に悪影響を与えることが憂慮されているのと同様に、放流が尾瀬の水生生物の生態系に遺伝学上の変異を発現する恐れは十分にあり、この機会に放流の指示を停止するよう申し入れる。

(群馬・福島両県知事、利根漁協組合長あて3通提出)

### 平成19年群馬側活動中間報告

群馬側担当理事 坂本敏子

日時 平成19年6月9日(土)午前6時~7時  
場所 戸倉第1、2駐車場ほか

前日(6/8)の雨と週末の天気予報が雨の影響もあってか、この時期にしては入山者は少ないように思われた(6/2~3は、過去数年では最高的人数であったとのこと)。

今年の5月から戸倉に第1駐車場(170台収容)が新設され戸倉~鳩待峠間の乗合タクシーの発着所ともなっている。第1駐車場には約120台、従来の並木(第2と改名)駐車場には約80台の駐車があった。中には岡山、三重、神戸、和歌山ナンバーの車もあった。

近年、ツアーの団体が多く鳩待峠には多くの観光バスが駐車して尾瀬ヶ原にはかなりのハイカーで賑わっていた。団体がいなくなると極端に人数も少なくなり静けさが甦る。

ツアー客?の服装は相変わらず軽装で、とくにスニーカーが目立った。

ゴミは山の鼻~牛首分岐までにレジ袋いっぱい収集した。休憩所、ベンチに包装容器、菓子類の紙、ツマ楊枝等が多く、団体客のマナーの欠落とも思われる。異質なものとしては、ペンダントの時計や万歩計などがあった。

咲いていたおもな花

ミズバショウ・リュウキンカ・ショウジョウバカマ・ミツガシワ・エンレイソウ・シラネアオイ・ニリンソウ・ムラサキヤシオ・ETC

参加者

池田稔夫 伊藤アケミ 坂本敏子 島田富夫  
清水博之 鎮目安康 長島睦世 前田佳胤  
横田有弘 の皆さん計9名

注:9月1日(土)~2日(日)に予定されている第2回入山指導について、宿泊場所は渋沢温泉小屋となります。

問合せは

清水博之 027-361-8055  
坂本敏子 043-250-4882

### 平成19年福島側活動中間報告 出足好調だったのに

福島側担当理事 磯部義孝

残雪期の5月25日午後、8名の指導員がひのき屋に集合。夕食時に第1回目の打合せをしながら「山人料理」を楽しむ。翌26日早朝、円谷指導員と御池にて合流、9名でバス添乗解説を開始。今年から御池バスターミナルを拡張し、バスの乗降もスムーズになった。またバス料金も昨年まで御池~沼山峠間が530円であったのを今年から400円と大幅に値下げした。入山者にとって大変有難い朗報です。

また、交通規制も様変わりした。従来、観光

バスは御池で乗客を降ろして、すぐ七入駐車場まで戻り待機し、乗客の御池下山時刻に合わせて御池まで上がっていたものが、今年から御池駐車場の奥に新設されたバス駐車場で待機出来るようになり、観光バスは御池～七入間の1往復の燃費節約となり、併せて排気ガスによる大気汚染を少しでも軽減することが出来る。

混雑期は春のミズバショウの時季1～2日と、夏のニッコウキスゲの時季1～2日と年4～5日程度です。

入山指導の参加者は1回目5月26・27日9名、2回目6月9・10日5名、3回目7月21・22日5名(いずれも前泊)と、1回目に比べて2回目以降の参加者が半減し配置のやりくりに苦労した。御池ベースの留守番が不在で会津バスの職員さんに留守番をお願いしたこともある。福島側入山指導もあと9月、10月の残り2回となった。お手伝いいただける方の参加ご協力をお願いいたします。

会員の小林ミヨさんはこの8月実施の指導員要請講座受講生で、5月の入山指導に参加され他の指導員とバス添乗解説を経験しており、この秋の新指導員デビューが楽しみです。昨年指導員デビューの円谷光行さんはただ1人入山指導無欠勤、毎回連続参加の記録更新中です。

入山指導3回目終了時の参加者は次の通り。  
3回=円谷光行 2回=佐藤信良、大橋文江、初谷博、磯部義孝 1回=前田佳胤、坂本敏子、伊藤アケミ、高橋喬、田中志郎、深山美子、横田有弘、牛木一郎、小林ミヨの皆さん  
ご協力感謝いたします。

### 研修会も大盛況

今回は「檜枝岐歌舞伎と周辺散策」として実施した。定員20名募集に締切日に申込が殺到し、最終的に32名の参加があった。

歌舞伎開演に先立ち、檜枝岐歌舞伎「千葉の屋花駒座」前座長星正徳さん(65歳)より開演前の客席にて檜枝岐歌舞伎260余年の歴史と親から子へ孫へと伝承の苦労話など多くの話を聞くことができた。

檜枝岐歌舞伎は大盛況で関係者の話だと入場者は初めて1000人を上回ったとのこと。

研修会2日目は2班に分かれ「ブナ平コース」と「竜の門の滝コース」それぞれの希望コースを堪能し、昼食は檜枝岐名物の「裁ちそば」に舌鼓を打ち、無事研修会を終了した。

参加者は当会指導員13名、会員8名、一般11名の計32名。今回の研修で一般参加の岩田次郎さん、岩田征子さんご夫妻(福島県須賀川市)

のNW入会がありました。

また、今回の研修にマイカー提供のご協力を頂いた会員各位に厚く御礼を申し上げます。



前座長星正徳氏の檜枝岐歌舞伎解説

### 尾瀬沼尻ゴミ撤去作業に参加して

6月25日～27日、尾瀬沼尻ゴミ撤去ボランティアにネットワークから磯部、佐藤信、西山、椎名の4名が参加した。

尾瀬国立公園になる前に、放置ゴミは撤去してほしいと環境省に申し入れをした手前、現状を知るための参加だった。

ボランティア20名、福島県、檜枝岐村、尾瀬保護財団、レンジャー、ビジターセンター職員、計10名、総勢30名。

カン、ビン、ビニールに分け土嚢に1000袋、約3屯のゴミを搬出した。沼尻のゴミはまだまだ大変、ほんの一部に過ぎず、何年かかってもきれいにすると、檜枝岐村の観光課長は頼もしく言い切った。(椎名 宏子)



尾瀬・沼尻地区のゴミ撤去作業

### ゴミ撤去一般参加者からのメール

佐藤信良様

三浦一樹

突然のメール失礼いたします。

自分は去る6月26日、27日に尾瀬のゴミ撤去に一般ボランティアとして参加させて頂きました三浦です。

その節は大変、お世話になりました。自分は元々、ボランティア、あるいは自然環境保護などには、それほど興味はありませんでした。それでも仕事を抜きにして誰かの、何かの役に立ちたいと、漠然と考えている程度でした。

尾瀬を訪ねるのは今回が初めてだったのですが、尾瀬のゴミ問題というのはメディア等でそれなりに知っていたつもりだったのですが、実際に現地を訪れてみて、ここまでひどいのかと、正直、かなりショックを受けました。

それでも、佐藤様や椎名様をはじめ、いろいろな方々とお知り合いになれて、様々なお話を伺い、自分なりに色々考えるきっかけをくださった今回のボランティアは、自分にとって本当に貴重な経験となりました。

また、現地でお話の出たNPO尾瀬自然保護ネットワークのホームページも拝見させて頂きました。自分も仕事を持っているため、積極的な活動はなかなか出来ないと思いますが、それでも自分なりに出来る範囲で頑張りたいと思い、ぜひ入会させて頂きたいと思います。

佐藤様、椎名様、本当に有難うございました。

## 世界の宝 尾瀬を守るために

福島県鏡石町 円谷 光行

この春に永年勤めた役所を退職し、第2の人生の職場で働き始め漸く慣れてきところですが。今は職場環境が一変し余暇時間が増し自然を観る角度が広がったように感じます。

昭和51年の夏に初めて尾瀬に行き、沼山峠を降りて林の中から抜け出るとパッと明るくなり大江湿原に咲き乱れているニッコウキスゲの全景を見た瞬間、心が奪われました。その美しさと静けさに大きな感動を受け、その瞬間から尾瀬に惚れてしまいました。

尾瀬に投げかけられている様々な問題や課題に興味を持っていましたので、ボランティア活動で何かお手伝いしたいと考えインターネットで募集していたNPO尾瀬自然保護ネットワーク主催の「指導員養成講座」を受け、現地研修をふまえて尾瀬をもっと深く知らなければならないと痛感し活動の仲間入りをいたしました。

この度は、福島県側の活動・研修等のまとめ役を務めている佐藤信良さんの後継者として推薦を受け総会にて次期理事に承認されました。引き受けた根底は「世界の宝 尾瀬を守るために」であります。諸先輩が守り続けてきた自然

の大切と精神を受け継ぎ努力をいたします。

## 添乗解説活動に参加して

福島県 小林 ミヨ

5月26日(土)福島側の会津バス添乗解説活動に参加させて頂き、有難うございました。

尾瀬をかけがいのないものに思い、守ろうとしている皆様の気持ちに頭が下がる思いでした。

昨年、行動を共にする機会に恵まれ、尾瀬保護に関する活動を知るようになりました。入山の機会が多くなるにつれ、身近に感じるようになってきている昨今です。そのような時に添乗解説活動を目のあたりにし、入山者への足元からの懇切な指導に、「安全に尾瀬を楽しんでほしい」という気持ちがひしひしと感じられました。

また、地元の関係機関やバス会社との連携、連絡等の下準備など、表面に現れない水面下での活動があつて会を支えていると思いました。エコバスも運行されておりました。普通のバスに比べて割高とのことでしたが、できるだけ増えることを願わずにはられません。

ところで、水芭蕉の季節の尾瀬は今回が初めてでした。少し早かったようですが、多くの花たちに逢うことができました。

ありがとうございました。

## オーエムシーカードの株主から寄付金

(株)オーエムシーカードの株主の皆さんから、(財)緑の地球防衛基金を通じて4万1,657円の寄付金をいただいた。昨年夏に続き2回目。大切に使用させていただきます。

## 事務局長に渋川文隆氏

(財)緑の地球防衛基金

(財)緑の地球防衛基金の事務局長が8月1日付で中根一郎氏から渋川文隆氏に代わった。

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内  
電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178  
[http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

理事長 高橋 喬  
事務局長 椎名 宏子  
編集担当 島上 健  
HP担当 東雲 明

